

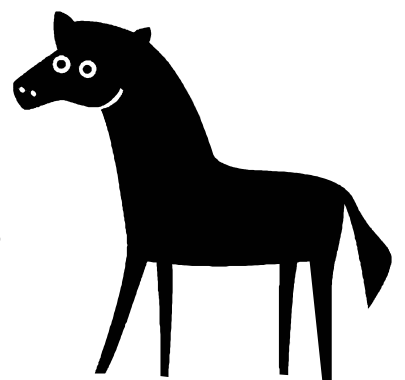
# 坂本 竜馬こぼれ話

(背骨に奇形があった?)

施設長 吉田憲一

皆様新年おめでとうございます。本年が皆様にとって良い年でありますように。

去年は新型インフルエンザの流行もあり、スペイン風邪やパンデミックのお話しをしましたが、今年は、あまり皆さんが知らない、竜馬の話をしてみたいと思います。彼は日本の歴史上最も人気のある人物の一人で、小説、映画、ドラマ(大河ドラマ終わったばかりですね)とよく取り上げられています。彼のファンならご存知の方も多いと思いますが、彼は幼児期、少しぼーっとして、精神身体機能の発達遅延があったようです。また背部に剛毛が生えていたようです。但し、ある時期に、軽快、治癒し成人してからの活躍はご承知の通りです。この発達遅延の原因は何かと考えると、有力候補として、脊椎二分症が挙げられます。この病気は、先天異常疾患です。そもそも人間の脊柱は、頸椎7個、胸椎12個、腰椎5個の椎骨が連なっていてできています。椎骨は中央部が中空で、いわば穴になっており、穴の部分には脊髄が通っています。ビーズ細工に例えると、椎骨はビーズ、繋ぐ糸が脊髄ということになりますが、この穴の部分に裂け目が有るのが、脊椎二分症です。重症型では背中に瘤があり、麻痺や知能の低下といった現象もよくみられます。一方不全型というか軽症型(潜在型)もあり、竜馬はこのタイプの可能性が考えられます。軽症型は症状が比較的軽く、時に自然閉鎖(治癒)することがあります。そして背部に、しばしば痣や発毛異常、をとまいます。竜馬の名前は、一説では背中の剛毛に由来するとも言われており、どうですか、ありそうな話でしょう。遺体の発掘調査でもしない限り、真偽は永遠の謎ですが。



# 2010 Christmas Party



昨年の12月、緊迫する朝鮮半島情勢に世間の目が向けられる中、比較にならないほどの圧倒的なインパクトを持って行なわれたイベントがあります。その名は...

「ケアポート・田谷 クリスマス会」



市川海老蔵の芸にも負けない技術を持ち、斎藤佑樹に匹敵するカリスマ性を備えた、ボランティアのグループや当施設職員による演奏会などが12月18日に披露されました。

当日ご覧になれず、尖閣諸島問題時にビデオ映像が中々公表されなかった時と同じ歯がゆさを感じた皆様は、ぜひこの新聞の隅々まで眼を通して頂き、さかなクンが国鱒を発見した時のような感動を、味わって頂きたいと思いまーす。

師走になり寒さも厳しくなる中、皆様のお陰で2階フロアーにてクリスマス会を開催することが出来ました。デイケア、2・3階のご利用者様やそのご家族等、多数の方々にお越し頂きまして大変感謝いたしております。

今年のクリスマス会は「ロシアンシュークリーム」から始まりました。4名で同時にシュークリームを食べ、その内の1つにワサビが入っているというゲームです。

ご利用者様にも参加して頂いており、体調面に配慮しわさびを



マイルドにした為か、当たり？を食べたにも関わらず「美味しい！」と仰られる場面があり、笑いを誘う一コマとなりました。

そして、昨年に引き続いての“オトラヴェスとその仲間たち”によるケーナの演奏は見事なもので、会場にいる人々は熱心に聴き入っていました。多種類の笛と太鼓、ギターが奏でる素朴な音楽は南米アンデスの山々を連想させ、その雄大な響きは日常の生活から心を解放させ、リフレッシュすることが出来たのではないかと思います。演奏家のお気遣いにより、日本の名曲「故郷」等演奏していただき、本当



にありがとうございました。未知の楽器ではあるものの、慣れ親しんだ曲を耳にすることで、音色を身近に感じる事ができたと思います。

最後は職員で、ピアノ、ギター、鈴、木琴、ハンドベル等を使用し“ジングルベル”“赤鼻のトナカイ”を演奏しました。拙い

ながらも熱心さは伝わった様子で、多大な拍手をいた

だきました。準備不足もあり、聞きづらい点、見づらい点、多々あったとは思いますが、少しでも楽しい一時を過ごして頂けたのではないかと思います。

ご利用者や職員にとって、貴重な体験を共有できる機会を多く持つことは非常に意義のある事だと思います。今回の反省点などを踏まえ、来年は更に素晴らしい会にしていきたいと思いまーす。

2F介護：中山





クリスマス間近とは思えないのどかな暖かさの中、ケアポート・田谷クリスマス会を開催しました。昨年と同様、職員の納所氏率いる“オトラベス”のケーナ演奏による心温まる“きよしこの夜”“故郷”などを含む全10曲を披露して頂きました。

その他にも職員の演奏で、「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」の2曲を披露させて頂きました。ハンドベルは初めての挑戦であり一ヶ月前より練習を重ねたのですが、経験者もいないため、手探りでの練習に四苦八苦。演奏前は緊張の嵐でしたが無事2曲を終えることができました。利用者様からの温かい拍手を頂くことができました。ケアポート・田谷のクリスマス会はまさに音楽尽くし。目で見ても耳で聞いて利用者の皆様の心に残る会を楽しんで頂けたのではないかと思います。来年も皆様に喜んで頂けるようなクリスマス会を開催したいと思います。 3F 介護：田口



# 2010 イベント

今年のデイケアのクリスマス会は、12月20日から23日に開催しました。

全ての日で披露した、ハンドベルの演奏以外に、1日目は演劇水戸黄門。2日目はひげダンス。3日目は職員の指揮による利用者の方々参加のハンドベル。4日目は職員による仮装卓球対決を行ないました。

練習不足の為か、初日は全体的に流れが悪く、恥ずかしいお披露目となってしまいました。

毎日行なったハンドベルも、日を負うごとに出来栄が良くなる内容だったと思います。初日から笑顔で観覧して頂いた利用者の方々に感謝いたします。

2日目のひげダンスでは、飛び入り参加された利用者の方が職員よりも上手で、あせる職員を尻目に会場全体が盛り上がる結果となりました。来年は今回よりも、利用者の方々に参加して頂けるプログラムを考えていきたいと思います。

今年の反省を活かし、来年こそ「今年のクリスマス会が1番楽しかった」と言って頂けるよう頑張りたいと思います。

デイケア介護：瓜生





# 芋ほり大会

前号の「田谷の風」でご紹介したサツマイモの苗が立派に育ちました。10月に“芋ほり大会”をしました。小さくても実がついていれば良いと考えて

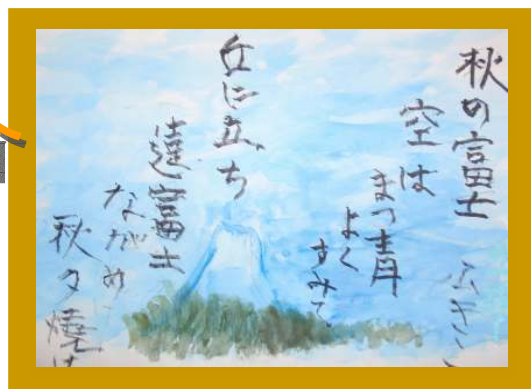
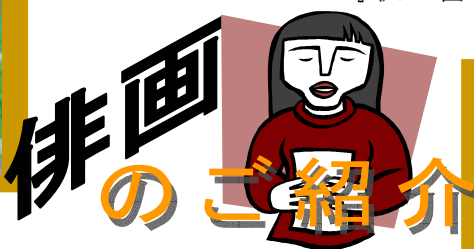


ていたのですが、思いの外、大きな実がなっていました。ご利用者様一同驚き、思わず笑みがこぼれていました。この後、鍋で蒸かして美味しくいただきました。



ご入所様がリハビリの時間に制作された「俳画」をご紹介します。ベッドで横になっているときに思いついた俳句を作品にしました。

『秋の富士 空はまっ青 よくすみて』



『丘に立ち 遠富士ながめ 秋夕焼け』

お知り合いの墓参に行かれた際、そこから見える富士山の美しさに感銘を受けたそうです。

『車いす 吾が子に押され れんげ道』

ご子息に車椅子を押してもらいながら見た“レンゲソウ”だそうです。とても綺麗だったと何度も話されていました（レンゲソウの花言葉：「心が和らぐ」「私の苦しみを和らげる」）。 作業療法士：岡澤

## 消防部屋の秀さん

昼休みが近づくと、まだ授業中だというのにマムシの岡部がそわそわしだした。教室の達磨ストーブの周りに置か

れた弁当箱が温まって、そこから食欲をそそるいい匂いが漂いはじめたからだ。下駄屋の息子の岡部が、なぜマムシの岡部と呼ばれるようになったかの経緯は忘れたが、いつも先生の話も上の空で、達磨ストーブの方にばかり血眼になっていた。午前中の終業チャイムが鳴って先生が教室から出て行くと、生徒たちは一斉にストーブの周りに集まりだした。自分の弁当を手にとって包みを広げていくが、見るとマムシの岡部は、もうご飯を口の中にかき込んでいた。「大変だ！ おい、あれ見ろよ！」。隣の席で正純君が素っ頓狂な叫び声をあげた。振り返って指さす方を見ると、窓の周りに何人かの生徒達が集まって騒いでいた。人のあいだから窓の外を眺めると、川の向こう岸にある消防部屋の小屋から煙が上がっているのが見えた。小屋の扉が勢いよく開き、中から人影が慌てふためきながら飛び出してきた。大きな甕にバケツを突っ込んで、汲んだ水を小屋に向かって必死にまき始めるが、よく見ると、それは小林の秀さんだった。秀さんは僕より学年が三つ上だが、学校には通わず、昼間から村中をあちこち徘徊して過ごしていた。自転車に乗って遊んでいるとき、通りに停車してあったフォードに勢いよくぶつかり、頭に重い障害を負ってしまったのだ。普段から消防部屋に出入りしていたことから察して、どうやらそこを根城にしていたらしい。秀さんの努力の甲斐も空しく、立ち上る煙はなかなか消えそうになかった。そうこうしているうちに、隣家の大人たちが消火に加わり、火の見櫓の鐘楼が鳴り響き始めた。役場の手漕ぎポンプも出動して、火事は見る間に鎮火され、小火で事なきを得た。

次号へ続く

南部 圭（利用者様ペンネーム）

